



今月のテーマ：脳機能のチェックと認知症

前回、軽度認知障害、アルツハイマー型認知症の早期の治療薬として、抗アミロイド β 抗体薬の紹介をしました。最近、その動向が変化してきたことについてお話しします。

今まで、認知機能検査の点数を重要視し、軽度認知障害を判断していましたが、最近は、その点数が良好であっても認知機能障害がある場合もあることが確認されています。脳内にアミロイドが蓄積すると、タウ蛋白という認知機能に強く影響をもたらすといわれている物質を増加させてしまうといわれており、この產生をなるべく防ぐようになります。最近は、早い段階で抗アミロイド β 抗体薬を投与した方がいいのではないかと言われています。実際に臨床場面では、認知機能検査の点数はそれほど悪くない点数をとっても、日常生活ではある程度の支障をきたしている患者さんも存在しており、認知機能検査の結果のみでは、抗アミロイド β 抗体薬で治療するべきかどうかが判断できない事例もあります。

過度に心配しすぎる必要はありませんが、自分自身で、物忘れが増えたことを自覚したり、同居している家族や、知人などから物忘れなどを頻回に指摘されるような場合には、是非とも、認識力のチェックを受けて下さい。前回の話の繰り返しになりますが、抗アミロイド β 抗体薬は、軽度認知障害の段階か、アルツハイマー型認知症の早期にしか使用できませんので、遅きに失しないようにご注意を。



文：肝付町立病院 野添聖一 医師

お問い合わせ先 肝付町立病院 ☎ 0994(67)2721



消費生活相談



SNSで勧誘される詐欺的な暗号資産の投資話 被害回復は困難です



■相談内容 SNSのアカウントに知らない異性から連絡があり、別のSNSでやり取りしようと誘われた。数日間メッセージのやりとりをした後、暗号資産の投資を勧められた。国内の暗号資産取引所で自分名義の口座を開設し、日本円を暗号資産に交換した。預けた暗号資産を出金しようとしたら、認証金の支払いを追加で求められ、いつまでも出金できない。送金額は総額約500万円である。(60歳代)



●みんな気をつけて●

- SNSなどで知り合った面識のない相手から暗号資産等の投資を勧められたら、詐欺的な投資話を疑ってください。
- 暗号資産は価格が変動することがあり、価格が急落して損をする可能性があります。たとえ取引相手が登録業者でも、こうしたリスクや契約内容を十分に理解できなければ契約をしないでください。
- いったん振り込んでしまうと、被害回復は極めて困難です。相手の説明に不信感や疑問を抱いたら、すぐにお住まいの自治体の消費生活センターや最寄りの警察に相談してください（消費者ホットライン188、警察相談専用電話「#9110」番）。



■心配なときは、お住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください

消費生活相談窓口（鹿屋市消費生活センター）☎ 0994(31)1169 消費者ホットライン☎ 188